

平成 30 年度 海洋水産資源開発事業 ＜スジアラ養殖の企業化に向けた技術開発＞の調査結果概要



調査実施庁舎：西海区水産研究所八重山庁舎

中央水産研究所横浜庁舎

調査期間：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

本調査の目的

スジアラ *Plectropomus leopardus* は、南日本からオーストラリア北西部の西太平洋の沿岸域に生息するハタ科魚類である。日本では、奄美大島以南の南西諸島において高級魚として知られており、特に沖縄地方では三大高級魚のひとつとされている。国外では、中華人民共和国やシンガポール等の中華圏において市場価値が高く、特に活魚で体色が赤色ものは高値で取り引きされている。当機構では 2009 年にスジアラ種苗の量産技術の開発に成功し、国産の養殖種苗の確保に目処が立ち、さらに 2016 年には完全養殖にも成功したことから育種技術の開発にも着手することが可能となり、スジアラ養殖業を創出するための基盤的な技術が整っている。このようなことから、スジアラを南西諸島海域における養殖業の成長産業化の新たな養殖対象種に位置づけ、本調査ではスジアラ養殖の収益性の検討および企業化に向けた課題を整理するため、これまでに開発されたスジアラ養殖の基盤的な技術をもとに、養殖実証試験、市場調査、販売試験等を実施する。

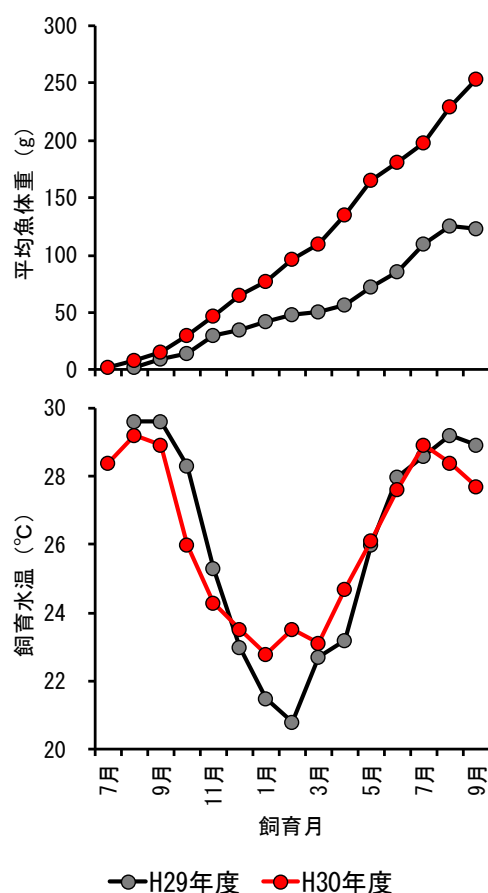
本年度調査の主な成果等

(1) 養殖実証試験

大型水槽を用いた養殖試験では、給餌翌日に一斉に大量の排泄が起こるため、一時的に溶存酸素量が低下することが問題となり、その対処として一時的な換水率の増加措置を行った。また、H30 年度の飼育魚の成長を前年度のものと比較すると前者の成長が良好であり、冬季の水温が高かったことがその一因と推察された。

(2) 出荷・輸送技術の検討および販売試験

国内外のスジアラの流通、需要、供給および消費などの調査を外部の専門機関に委託して実施するとともに、輸出マニュアルの原案を作成した。国内外の水産業者やレストランなどにサンプル提供して養殖スジアラの評価を聞き取ったところ、概ね良好な結果であった。また、購入を希望する者に対しては具体的な販売条件などを協議した。



H29 年度と H30 年度の飼育魚の成長と水温
※各年度の試験開始から翌年 9 月までを比較